

令和5年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、私学として4番目の旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和の取れた全人教育」を追及すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標「主体的に行動する“オモロイ”18歳の育成」を2019年度より掲げ、ユニークな進学校としての成長・発展を目指しています。

〈目指す学校づくりとして〉

ユニークな進学校

- ① より多くの方々から本校教育に興味関心をいただき、選択していただける学校
- ② 他の教育機関と連携を広げ、学びの多様性を基軸に据えている学校
- ③ 学校生活における今日的課題を生徒と共に克服し続ける学校
- ④ 探究心を基として試行錯誤を教育の柱とする学校

〈目指す生徒像〉

主体的に行動する“オモロイ”18歳

- ① 自らの意思・判断による、責任ある行動が取れる人物
- ② 人種・性別を超えた魅力ある人物

〈スクールポリシー〉（2023年度策定）

アドミッションポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

- 自分の変化にワクワクしたい生徒
- 自分も知らない“自分”に出会いたい生徒
- 自分の可能性にチャレンジしたい生徒

2 中期的目標

1 スクールリレーションズセンター ～生徒・保護者・教育関係者をつなぐ～

- ① 生徒・保護者・教育関係者等をつなぐ広報活動
- ② 教育を考える情報発信の場となる

2 ライフサポートセンター ～「安心・安全・信頼」を構築する～

- ① 安心・安全な学校作り
- ② 生徒・教員のカウンセリング
- ③ 学習成果の確認と表現の場としての生徒会活動および行事活動

3 ナレッジマネジメントセンター ～学校に所属する全員が成長するためのPDCAサイクルを構築する～

- ① 1つの枠に捉われず、様々な手法から自信に適した「学び」のスタイルを獲得
- ② 情報があふれる社会の中で、「目的」を意識した適切な情報を組織内で共有

4 キャリアレディネスセンター ～「キャリア・進路選択」の力をデザインする～

- ① 「生徒」「教職員」「保護者」のキャリア形成に資する機会の創出
- ② 多様な進路実現を可能にする組織的な支援

自己評価アンケートの結果と分析〔令和５年１２月実施分〕	学校評価委員会からの意見
○「自己評価」に関して ・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率 97.7% ・全生徒アンケートは２学期期末試験最終日に実施。教員がアンケートを配布、回収。 〔１〕 生徒の自己評価 ○生徒の肯定的回答上位２項目 １）〔役割〕 日直や係の仕事、クラス活動や学校行事の中で、自分に与えられた役割をきちんと考え果たそうとしてきたと思いますか。 肯定評価の割合 85% ２）〔規律ある学校生活〕 高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。 肯定評価の割合 84% ○生徒の肯定的回答下位２項目 １）〔学習〕 自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。 肯定評価の割合 67% ２）〔行動選択〕 自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。 肯定評価の割合 76% 〔２〕 保護者による学校評価 ○保護者の肯定的回答上位２項目 １）〔総合満足度〕 お子様を本校へ入学させて良かったと思われませんか。 肯定評価の割合 91% ２）〔学校行事〕 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。 肯定評価の割合 89% ○保護者の肯定的下位２項目 １）〔育友会活動〕 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動への関心度 肯定評価の割合 38% ２）〔自律学習〕 保護者の目からみてお子様は、自分なりの目標や課題を持って日々の学習に取り組めるようになりましたか。 肯定評価の割合 68% 〔３〕 教員による学校評価 ○教員の肯定的回答上位２項目 〔部活動〕 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いますか。 肯定評価の割合 95% 〔総合満足〕 保護者や生徒は、大阪高校に入学してよかったと評価していると思いますか。 肯定評価の割合 87% ○教員の肯定的回答下位２項目 〔自律学習〕 生徒は、自分で立てた計画に沿って、自ら主体的に学習に取り組めるようになってきていると思いますか。 肯定的評価の割合 31% 〔目標・努力〕 学校生活の様々な場面で、生徒は自分の目標をもって頑張っていると思いますか。 肯定的評価の割合 45% 【分析】 学校にさらなる充実を求めるお声は、学習指導と進路指導に多くが集中しています。子どもに獲得させたい資質でも、「将来を切り開いていく力」を選ぶケースが最多であり、その土台となる確かな学力の形成と一人ひとりの資質や志向にマッチした進路の発見と現実、これまで以上の注力する必要性を痛感しています。21 世紀型能力における「基礎力、思考力、実践力」の獲得に日々努力を重ねる生徒をしっかりとサポートすることを校是に、アンケートで示されたご要望に腰を据えて応えていく所存です。	・生活習慣に関しては、保護者と教員間でのギャップがあるように感じる。保護者の評価は教員ほど厳しいものではない。この差は何に起因するのか。 ・ワイヤレスイヤホンを着用して自転車通学する生徒の数が非常に多い。事故に繋がると思うのでしっかりと指導をして欲しい。 ・学習指導、進路指導に関しては、昨年度より改善したとを感じるが、まだまだ改善の余地はある。それぞれのコースの教育活動をもっと発信して欲しい。 ・HP の内容が非常に良い。日々更新されている印象を受ける。ぜひ継続してほしい。 ・外部教育機関と連携した課外活動をさらに発展させて欲しい。 ・保護者へ教育活動についての情報をより知らせて欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 ナレッジマネジメントセンター	(1) 多面的な学力の向上 ア 課題解決型プログラムの導入 イ 夏季講座の充実 (2) 指導力の向上 ア 面談や校務会議の充実 イ 教科指導力の向上	ア 2年生総合コース総合的な探究の時間でRingを実施 イ 無学年制を基本とし、教員が教えたい内容を提起 ア 大学入試情報や理系文系選択に関わる情報の共有と職場内の対話を深める研修の実施 イ 校内での授業研究 week の実施	ア 全国大会を目指し活動し、学びのポートフォリオの作成 イ 講座数と参加生徒数、事後アンケートによる振り返り ア 面談週間前の座談会実施 イ 見学教員による振り返りアンケートの実施と回収後の分析	ア 各クラス内のクラス内選考実施 イ 講座数 99 延べ講座受講数 1,500 参加者満足度 8 割以上が高評価 ア 初めて担任をする教員を対象としての実施。担任として面談に対して様々な材料の提供 イ 1週間という限られた時間の中で様々な意見交換ができた
2 ライフサポートセンター	(1) 学校行事の充実 (2) 帰属意識の向上	ア 文化祭におけるクラス参加の継続 イ 文化祭における保護者への対応 ウ 体育祭における学年ミックス参加の継続 ア 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・見学 イ 担任⇒ブロック⇒学年での指導 保護者への密な連絡 ウ 着こなし指導の継続実施 エ Q-Uアンケートを活用しての学級運営	ア 工夫度の向上 イ classi での配信 ウ 応援団を 6 団編成とする ア 加入率 60%以上 イ 出席率 98%以上 ウ 年 4 回以上の着こなし エ 学級満足群 50%以上	ア 全学年舞台発表実施 イ 保護者は来場できなかったが、各クラス classi での配信を行う ウ 応援団 60 名の生徒が参加 ア 加入率 50% イ 出席率 95.5% ウ 年 5 回の実施 エ 学級満足群クラス平均 51%
3 キャリアレディネスセンター	(1) キャリア形成にかかわる情報提供及び機会の創出 (2) 地域社会の課題解決に取り組む活動や外部団体との連携講座の充実 (3) 進路獲得及びその先のキャリア形成に資する取り組みの実施	ア 学年テーマごとに進路ガイダンス実施 イ 薬医療看護・海外進学プログラム、進路検討会の実施 ア CHOLA ゼミやラボ講座を大学、短期大学、専門学校等と連携して講座を実施 ア 大学及び短期大学との協定終結及び継続 イ 大学の単位認定講座の実施 ウ 進学前教育の計画的実施	ア 進路観の醸成及び教養の深まり イ 各自の志望校の選択 ア 分野別に体系的な取り組み ア 進路獲得の機会拡充 進学費用等の負担軽減 イ 認定講座の開講講座数 ウ 進学前の課題、面接の実施	ア 延べ 100 校以上の大学専門学校、または企業が参加 イ 進路決定率 97%を実現 ア 社会の諸問題に触れることによる視野の広がりや課題解決力の向上 ア 新規協定校の増加 (3 校) 協定校との契約継続 (10 校) イ 進学先の単位認定 (科目履修等) 講座の受講 延べ 5 名程度 進学先の入学前教育に加え、本校独自の進学前教育を提案 (参加者 207 名) ウ 大学、短期大学からの高評価
4 スクールリレーションズセンター	(1) 重点中学群・重点塾への広報活動の工夫 (2) 教育実践の内部広報と外部広報 (3) オープンスクールの研究 (4) 教育について語る場の創出	ア 出前授業の充実 イ 中学校・塾との情報交換に重点を置く ア 日々の教育活動を「大高の教育実践」で内外に発信 イ 探究コースの取り組みを広報の重点に ウ HP の権限を各クラブ・学年・分掌に分担する ア 主体的に行動する生徒組織の構築 イ オープンスクール企画運営委員会を通しての生徒の成長を促す ア 教育フォーラムの開催 (来校者 107 名) イ 中学校の保護者対象説明会 3 回開催 (来校者 146 名)	ア 新規出前授業 イ 訪問回数 ア 学内情報の見える化 イ 探究コースの情報提供希望 ウ HP の訪問回数 ア 参加希望者数 イ 質問内容 ア 対話の内容 イ 対話の内容	ア 出前授業の依頼増加 (前年比 7 校増) イ 1,300 回の訪問回数 (前年度同数) ア 授業実践を 4 号まで発行。発行数増が課題。 イ 学校説明会への参加者増加 ウ 新規訪問回数が増加 (6093) ア 4995 名の参加 イ 主体的に行動する生徒が増加 ア 参加者からの問いを通じてフォーラムを実施できた。 イ 教育内容に関する問いが多く、充実した対話の時間となった。